

11月議会報告
一般質問
12/6~12/9

香川県

てしま 豊島の汚染土壌 伊香立途中で処理 最大7万トン

安全は強調されても
広がる住民不安



こんにちは 岸本のり子です

発行 日本共産党
大津湖西地区委員会
連絡先 日本共産党大津市会議員
岸本のり子
大津市和邇春日2丁目
ケイタイ 08031163877
2011. 12/ 25
No. 112

日本共産党

かつて大量の産業廃棄物が不法投棄された瀬戸内海の豊島から、産廃直下にあった汚染土壌が伊香立途中の「山崎砂利商店(株)」で水洗浄する計画が進んでいます。

岸本市議は

「地元伊香立で、香川県による説明を行うこと」「周辺住民との合意なくして、搬入を許可すべきではない」と強く求めました。

市は「許可権者として適法に処理されているかの確認や、事業場排水の抜き打ち検査を含めて調査を実施する。伊香立学区については市から説明を行っている」と答弁。

しかし、いま、大津市に求められているのは、中核市としての事務権限を最大限活用し、住民の不安解消や、地域の特性に考慮した対策を行うことです。

なぜ 遠く離れた伊香立で処理？

香川県は、今回伊香立で処理する理由を「WTO(世界貿易機関)の協定で、処理業者の所在地を指定できなかったため」と説明していますが、このような事態に至ったのは、当時の香川県が度重なる住民の訴えに耳をかさず、産廃業者による多量の不法投棄を黙認し続けていたことにあります。

豊島の島民との約束履行の期限が迫っているために、県外で処理を行うこと自体が問題です。

TPP参加は
世界の環境まで破壊する

岸本市議は、2009年6月議会で、「山崎砂利」は以前に、和邇北浜の安定型処分場で、硫化水素を発生するなどの事故を起こしており、汚染土壌処理施設として許可を与える前に、周辺住民に充分説明を行うことを市

に求めています。

民主党政権がすでに協議を始めているTPPに参加すれば、予定価格や環境基準の撤廃も予想され、今後ますます世界各地からも汚染された土壌が運び込まれることが懸念されます。



↑ 途中トンネル料金所

途中の汚染土壌施設

「山崎砂利」は、途中トンネルの真上に、甲子園球場の3倍もの広大な敷地で、中間処理業と汚染土壌の処理を行なっています。土壌汚染対策法の改正により、届出制から知事の許可制になり、2009年4月中核市となった大津市が、県から移譲された権限により、同年7月24日に汚染土壌処理施設として許可したのです。

ひがし昌子さんとともに
いのちとくらしを守る市政を



夕闇迫る伊香立で、「環境を守ることはいのちを守ること」
議会報告する岸本市議